

“ケータイ・オペレーション・ロボ”が登場!!

Pirkus・R Type-01

おさ
梓 みさお

2005年早々、KDDI(株)とアイ・ピー(株)から「ケータイで操縦できる二足歩行ロボット」Pirkus・R Type-01が発表された。これまでとはまったく違ったインターフェイスを持つロボットは、いったいどんなものなのか、緊急取材した!



携帯電話がコントローラーに!?

「Pirkus・R(ピルクス・アール)Type-01」は、本誌の読者であればおなじみの「Jin Sato」氏が基本構造を設計した二足歩行ロボットだ。言われてみれば、正面にバッテリーを配したスタイルなどは、なんとなく「Jinさんテイスト」を感じさせるものになっている。

ハードウェアの構成は標準的な二足歩行ロボットと同じで、足6×2、腕4×2、首1の計21自由度となっている。マイコンボードもJinさん製作の「E001」を基本にしたもの。ジャイロセンサーや加速度センサーも搭載が予定されている。

身長は29cmと、テーブルの上で動かしでも邪魔にならないサイズ。重量は約950gと、比較的軽量の仕上がりとなっている。主要構成材はA5052アルミだが、かなり積極的な各部の肉抜きなどで軽量化が図られているのだらう。

搭載されているバッテリーは800mAhのニッカド電池。これで10分ほどの動作ができるという。

しかし「Pirkus・R Type-01」の注目ポ

イントは機体だけではない。タイトルにもあるように、ホビーユースとしては世界初の「ケータイで操縦できるロボット」なのである。対応するのは東芝製のau端末「W21T」。

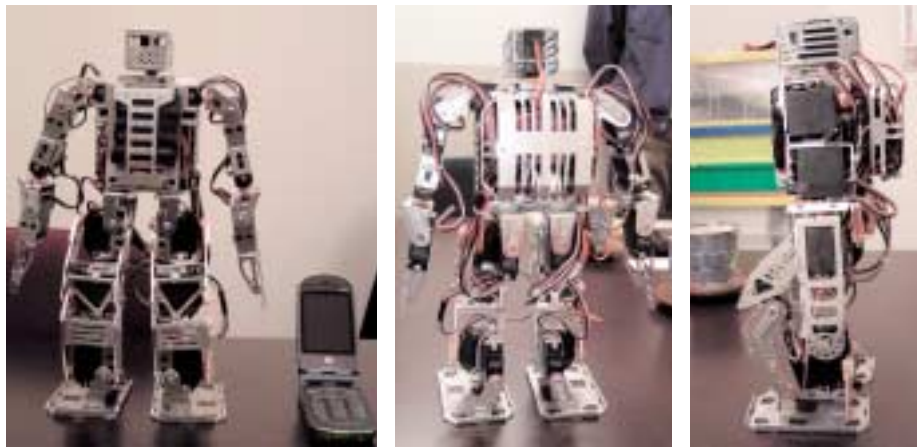
「Pirkus・R Type-01」はBluetooth通信で操作されているのだが、現在のところ対応している端末が、この1機種だけなのだ。だからもちろん、今後発売されるauの端末でBluetooth対応のものであれば、使える可能性は高い。

そうそう、ロボットを操縦しているときは携帯の電波は関係ないので、買うときにauのサービス範囲かどうかを気にする必要はない...念のため。

違和感のないインターフェイス

一通りの話を聞いてから、実際に操作させてもらった。

携帯電話のディスプレイにモーションリストが表示されており、そのNo.をテンキ



かなり多くの肉抜きが施されているフレーム。ユーザーはこれ以上の軽量化は考えなくてもいいだろう。正面横に写っているのが対応端末の「W21T」。横からのショットでもわかるが、足の付け根と足首は直行軸になっており、本格的な構成になっている。バックパックの中に納まっているのがマイコンボード。